

第56回 「事業継続推進機構（BCAO）仙台地域勉強会」議事録

1. 日 時：2022年4月8日（金）17時から18時30分まで
2. 場 所：ZOOM
3. 参加者：40名弱（他の地域勉強会へ声をかけ、合同開催となった。）

議 題： 南海トラフの半割れケースにおける社会・企業の対応

発表：東北大学災害科学国際研究所 福島 洋 准教授

「南海トラフ半割れ・一部割れ地震後の後発地震発生確率」

「半割れ地震後の後発地震による津波リスクマップ開発」

東北大学災害科学国際研究所 丸谷 浩明

「南海トラフの『半割れ』時の企業・組織の推奨対応レシピ」

○質疑応答（Q：質問 A：回答 C：コメント）

Q、先発の地震は諦めてくれということか？ 国として先発地震をどんな対策を講じていくのか。

A、国は突発的に起こる地震に対応する防災対策を進めている。そのうえで、先発の半割れ地震があった後に「後発の半割れ地震」が特に警戒されるので、こういった情報、知識を有効に使って更なる被害に備えましょうという位置づけである。

C、突発的な地震は予測不可能でありながら、半分が割れた残りの半分の地域での地震発生確率は平常時の100倍ほど高い。この知識を活用することで災害対応をかなり強化できるという視点である。

Q、時間経過ごとのマップを作成することは可能か。

A、津波の浸水に関する情報であれば作成可能。例えば、浸水30cmまでに達するまでの時間も比較的容易にマップでお示しできる。

Q、東側が最初に半割れを起こして、西側が連動するとの説明だったが、西側が先に割れることは考えられるか。

A、十分に考えられる。これまでの2回が、たまたま東側から壊れていたというだけ。

Q, 半割れではなく、1/3割れケースもあるか。

A, 十分にあり得る。その場合はM8.0に達しないので「一部割れ」として注意というよ
うな、全体に比べれば小さめな臨時情報が発せられる。

Q, 高齢者や障害者といった災害弱者をどうやって守るかが、個人的な関心事。私の住む地域で
は、要支援者名簿に対する同意は個人から得ているものの、公開がまだされていない。

A, 一部割れも含め、事前避難の時間の余裕ができるという意味なので、対応レシピの活用をお勧
めしたい。

Q, タイムライン表が参考になった。全割れが発生することは学術的に考えられないと聞いた覚え
があるが。

A, 全割れが巨大地震モデル（マグニチュード9）のことであれば、相対的に起こる確率は
低いが、考えられなくもない。一方、東側と西側が（全部でなくても）同時に割れる地震
は、過去にも何回か起こったとされており、十分に考えられる。

C, 地域ごとに見ると、全割れでなくても最大被害に近いことがどこでも起こる。全割れでなくても大
変。そのためにも、事前に対策を練っておくことが有効。

C, 半割れが起こってしまった時に、残りがいつ来るか分からない、世情が大変騒がしくなる中で
どれだけ冷静な行動を行政や企業ができるか。そのためには、各組織がこういった表を頭の中
で整理しておくことが、やるべき対応策になるのではないかと思った。

Q, 以前、南海トラフの説明の中で、「先に揺れた地域に国からの支援が集中してしまう。」という話
があった。残った地域へは自衛隊や医療支援などが行き届かないことが最悪起こりうると覚悟し
なくてはならないか。

A, 物資については、政府もある程度留保しておくことを念頭に計画を立てているかもしれない。し
かし、政府もばたばたと対応に追われ、そこまで手が回らないような気がしている。

C, 政府の中にどれだけ物資のことを発信できる人がいるか。政府に頼らずに、半割れの残った地
域は、各自で事前備蓄をしておくしかないと思っている。

C, 残った半分の方の行政が初めて備えを意識した時にはもう遅いと言いたかった。だからこそ事

前備蓄をしておくことが重要である。

C, 一般の企業や施設などに浸透していないので、これから広報していくことも必要ではないか。

C, 別のチームが半割れの認知度を調べたところ、かえって低下しているとのデータが出た。PR が
いかに難しいか我々研究者も認識している。政府とも意見交換の機会があると思うし、自治体、
他の研究機関などとも連携していきたい。

C, 日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震の研究結果を受けて北の方でもこういった活動を考えなく
てはならない。

C, 臨時情報という言葉がそもそも聞いたことがないという人も多くおり、認知度が低いことを痛感し
ている。せめて、社会で中心的に動くような組織の方々には知っていただく活動が今後必要だ
と感じている。

C, 静岡県でも東海地震対策はやっていたが、半割れなどに関しては具体的なものが出ていな
かったと記憶している。具体的なガイドラインを拡散していただきたい。